

平成20年度 三島市郷土資料館企画展 「☆これなーんだ？昔の道具☆」

展示期間 平成20年 6月15日(日) ~ 平成20年 8月31日(日)

これなーんだ？



答えは裏を見てね

ごあいさつ

郷土資料館では、開館以来、三島市民をはじめ多くの方々から寄せられた寄贈品を収集してきました。農具や民具、生活雑貨、おもちゃなど、生活の道具が数多く保管されています。

その中から、これまでに展示する機会の少なかった収集資料を中心に、前期の展示では、雛人形や五月人形などを展示しました。6月15日からの後期展示では、小学生を対象とし、昔の生活道具や戦時中使われた道具などを紹介します。

この機会に郷土資料館の収集資料を多くの方々にご覧いただければ幸いです。

主催 三島市教育委員会・三島市郷土資料館

いくつ わかったかな？

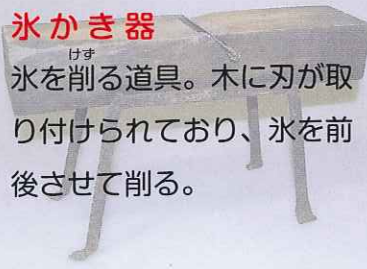
かつおぶしけず 鯨節削り

鯨節を薄く削り、おかかにする道具。



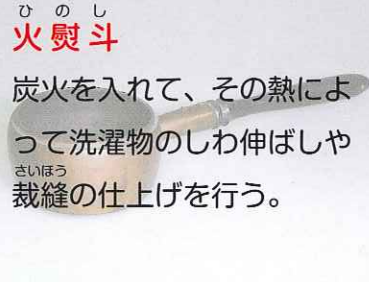
氷かき器

氷けすを削る道具。木に刃が取り付けられており、氷を前後させて削る。



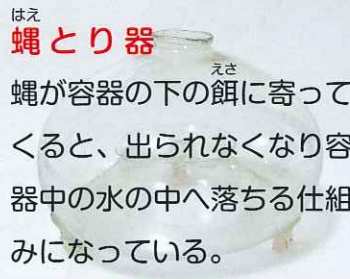
ひのし 火熨斗

炭火を入れて、その熱によって洗濯物のしわ伸ばしや裁縫さいほうの仕上げを行う。



はえ 蠅とり器

蠅が容器の下の餌えさに寄ってくると、出られなくなり容器中の水の中へ落ちる仕組みになっている。



かや 蚊遣り

蚊やブヨを追い払うために、植物や蚊取線香たを焚くための容器。



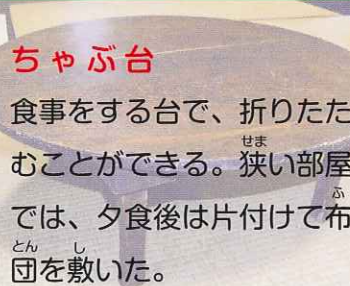
こうり 行李

竹や柳で編んだ箱形の入れ物で、旅行の荷物いりいや衣類を入れた。



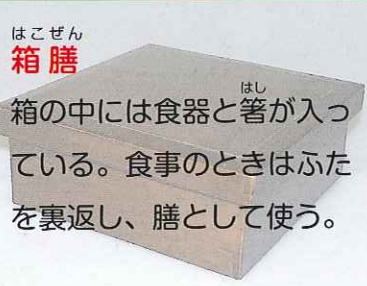
ちゃぶ台

食事をする台で、折りたたむことができる。狭い部屋では、夕食後は片付けて布ふ団とんしを敷いた。



はこぜん 箱膳

箱の中には食器と箸はしが入っている。食事のときはふたを裏返し、膳として使う。



ささら

細かく割った竹や細い木を束ね、鍋なべや釜かまの汚れを落とす。



ちゃぶ台収納時



箱膳食事時

台所道具

「米櫃」には、たくさんの米が保存されていました。

ご飯を炊くためには、「羽釜」を用いていました。羽釜には、大きな鏝があり、吹きこぼれないようになっています。また、分厚い蓋をして、炊き上がったご飯を十分に蒸らせます。

炊けたご飯は「御櫃」に入れました。木でできているため、余分な水分を逃がすことができます。夏は、ご飯が傷みやよくなるので、御櫃に濡れ布巾を掛け蓋をかぶせ、涼しいところに置いたり、ざるに移したりしました。冬は、温かく保つために藁で編んだ「御櫃入れ」に御櫃を入れておきました。



米 櫃



羽 釜



御 櫃



御櫃入れ



貧乏徳利

とっくり 徳利

酒や酢、醤油の保存や運搬に用いる容器。中でも酒徳利には、爛をつけるために用いる爛徳利と酒屋が貸し出していた貧乏徳利がありました。



枡

ます 枡

穀物や酒、醤油、酢などの体積を量る容器。一合枡（約180ml）、五合枡、一升枡（約1.8ℓ）、一斗枡（約18.0ℓ）などがある。



一斗枡

洗濯道具

洗濯物は、盥に水を汲み、「洗濯板」でこすって汚れを落としました。

着物は、汚れがひどくなったり、サイズが合わなくなったら、糸をほどこします。着物は糸をほどこと一反（単位）の布地に戻り、この状態で洗濯をしました。これを洗い張りといい、布が乾きやすい夏に行われていました。洗濯の終わった布には、のりがつけられます。絹のものには「伸子針」を張り、布がたるまないようにします。木綿のものは、「張板」に貼り付けて乾かしました。布が乾いたら縫いあわせれ、もとの張りのある着物になりました。

「炭火アイロン」は、火熨斗を改良してつくられたもので、布のしわを伸ばす道具です。



洗濯板



張 板



伸子針



炭火アイロン

戦時中に使われた道具

戦争が始まった昭和6年頃から終戦（昭和20年）までの間、つかわれていた道具などです。当時、人々は、日章旗や慰問袋などを兵士たちに贈り、戦地での無事を祈りました。また、戦時中は日用品や食料が配給制となり、一人あたりに配られる米や味噌の量が決められるなど、不自由な生活を送りました。

ゲートル

ズボンの上に巻きつけ活動しやすくするもので、足首から膝下まで巻いた。



湯たんぼ

主にふとんの中に入れて足を暖める暖房器具。陶器、金属、プラスチックなどで作られている。戦時中は、金属が貴重であったため、陶器製の湯たんぼが使われた。



りゅうそう

龍爪さん

龍爪信仰は、山の神への信仰で、諸難除け・鉄砲安全を祈るが、戦時中は武運長久、弾丸除けの神として信仰され、お札が頒布された。



軍服

戦争へ行く兵士たちが着た服。



ほうこうぶくろ

奉公袋

出征する兵士が、軍隊手帳や勲章など必要なものを入れて持っていくための袋。



ふじんようのらぎ

婦人用野良着

婦人の仕事着として、戦前から戦後まで使用された。動きやすい衣料として重宝された。



三島市郷土資料館

発行日 平成20年6月15日

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 055-971-8228 FAX 055-981-3730

<http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

※本企画展及びパンフレットは、当館学芸員・政木愛子が担当し、学芸員・鈴木隆幸・田中之博の協力を得ました。

※会期中、一部展示替えがあります。

※本パンフレット内の順序と展示順序は必ずしも一致しません。